

子ども読書活動推進事業

笠間市立図書館

1. 目的

読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることに鑑み、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう推進する。

2. 内容

- ①地域や学校・施設等との連携を図り読書の支援と資料の提供を行います。
- ②おはなし会、子ども読書フェスティバル、ブックスタートなどの事業を開催し、乳幼児期から読書に親しむ機会を提供します。
- ③年齢に応じた絵本リストの作成と配布を行います。

3. 実施状況

笠間市立図書館の子ども読書活動推進事業

	総 数	笠間図書館	友部図書館	岩間図書館
団体貸出（冊）※1)	3,538	1,194	1,920	424
おはなし会（人）	1,903	691	859	353
子ども読書フェスティバル（人）※2)	2,517	95	2,400	60
夏休み子ども向け事業（人）※3)	402	230	104	68
ブックスタート（人） （％＝配布率）※4)	542	166 (87%)	301 (90%)	75 (86%)
子ども向け事業（年間）				「中高生はこれを読め」※5)

※1：「子ども読書活動の推進に向けた取組に関する調査」への回答より。保育所、学校等への団体貸出の延べ冊数。

※2：友部図書館の数値は関係6団体構成による実行委員会で感想文・画、布絵本づくり、手作り絵本等のコンクール、おはなし会や表彰式のイベント等への参加者総数。

※3：子ども映画会、クイズラリー、工作会、絵画教室等

※4：ブックスタートパックを配布した人数。配布率はブックスタート対象者に対して、ブックスタートパックを配布できた割合

※5：推薦図書リストの配布。他2館でも配布している。

4. 内部評価

図書館利用者の大半は、乳幼児とその保護者、子どもたちが占めており、次世代を支える子どもたちへの様々な支援の中で図書館の果たす役割や働きは、大きなものがある。今後ともボランティア活動者などと連携を図り、継続実施することが必要である。

5. 外部評価委員会の意見

必要性		有効性		効率性		総合評価	
<input checked="" type="checkbox"/> 非常に高い	<input type="checkbox"/> ある程度認められる	<input checked="" type="checkbox"/> 非常に高い	<input type="checkbox"/> ある程度認められる	<input checked="" type="checkbox"/> 非常に高い	<input type="checkbox"/> ある程度認められる	<input checked="" type="checkbox"/> 現行どおり継続	<input type="checkbox"/> 改善し,継続
<input type="checkbox"/> どちらとも言えない	<input type="checkbox"/> どちらとも言えない	<input type="checkbox"/> どちらとも言えない	<input type="checkbox"/> どちらとも言えない	<input type="checkbox"/> どちらとも言えない	<input type="checkbox"/> どちらとも言えない	<input type="checkbox"/> 休止又は縮小	<input type="checkbox"/> 民間に移管
<input type="checkbox"/> あまり高くない	<input type="checkbox"/> あまり高くない	<input type="checkbox"/> あまり高くない	<input type="checkbox"/> あまり高くない	<input type="checkbox"/> あまり高くない	<input type="checkbox"/> あまり高くない	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 事業完了
<input type="checkbox"/> 非常に低い	<input type="checkbox"/> 非常に低い	<input type="checkbox"/> 非常に低い	<input type="checkbox"/> 非常に低い	<input type="checkbox"/> 非常に低い	<input type="checkbox"/> 非常に低い		

○書物（活字）離れの傾向の強い今は、この事業の重要性はいよいよ高い。現行どおり継続するよう希望する。

○乳幼児と保護者及び子どもへの貸出冊数が増加しており、必要性、有効性も高いことから、継続して事業推進すべきと認められる。

○乳幼児からいろいろな場面で本に接する機会があるということは、子どもの成長過程における図書館の利用につながっていくと思います。保育所、幼稚園、学校の「家庭教育学級」のような場に出向き、図書館職員の講話を実施して保護者に対する働きかけなどをすることも有効かと思えます。

6. 外部評価に対する改善等の取り組み

- ① 子どもは保護者や教員等、身近な大人との関係性の中で成長します。「第8回21世紀出生児縦断調査結果の概況」での「本を多く読む母・父の子どもは本を読む冊数が多い」という調査結果や、平成16年度文部科学省委託事業「図書館の情報拠点化に関する調査研究」において、「1ヶ月に1冊以上本を読む子どもの親がしている行動」として、「図書館に連れて行く」が他の項目を押さえてトップとなっていることからみても、的確な選書、レファレンス、集会事業等により図書館の利用促進に努め、より多くの地域住民の皆様に図書館を利用していただくことが、子ども読書活動推進の基礎と考えております。
- ② 子ども読書活動を地域全体で行うためには、ボランティアの協力が不可欠です。そのため、今年度の成果や反省も踏まえ、「読み聞かせに関する研修会」を実施してまいります。
- ③ 親の読書への姿勢が子どもに与える影響は非常に大きなものがありますので、読書の意義や重要性、読書活動を推進する方法等について、保護者に理解を深めていただく方策を検討してまいります。